

杉孝緑化ウォールシリーズ

SR-P

ブロックタイプ
 一般に基盤造成といわれるタイプ。
 土壌基盤にはビートモスを使用し農場にて植栽し養生を行う。
 ビートモスを入れるケースはポリプロピレン製とステンレス製があり、いずれも背面にフックがあり最上段のパネルを固定することで、構造体と一体となる。
 パネルサイズ：W300×H300×D90（植栽含まず）

ポットタイプ
 ブロックタイプと同様のケースを用いて培養土を入れた不織布プランターをパネルに収めて植栽する。パネル表面には井の字型の金網を配置し落下養生とともに植物の登はんを補助する。

SR-C

登はんタイプ
 コンテナと養生メッシュを一体型とし、つる性植物を現場設置前に農場にて養生期間を設けることで養生メッシュに十分に登はんさせて設置時に必要な緑比率を確保することができる。

下すいタイプ
 上記登はんタイプと同様の一体型で躯体状況に合わせて養生メッシュをコンテナからの下すいを補助するように配置した。

キューブタイプ
 W500×H500×D500の溶融亜鉛メッキの籠に不織布の中に土壌を入れて中心に中木、周囲に地被を植栽する。使用する植物を変えることで印象が変わるため様々な使い方ができる

キューブロングタイプ
 上記のキューブタイプに登はん補助用の籠を連結させてつる性植物を植栽養生することで緑の柱を構成する。

立ち木タイプ
 大型のプランターに中高木を植栽する大型の壁面緑化。通常建物の外部に設置し各フロア1段ずつ配置することで高所の階においても窓から緑を楽しむことができる。落葉樹を選択し南面に配置する場合には夏は緑陰による暑熱対策となり冬季は落葉し暖かな光を取り入れることができる。

SR-F

つる性植物に登はん補助するための資材。
 各タイプとも構造体（壁体）に対して取り付けられる構造とする。

SR-K

パネルシステム
 SR-Pを用いて仮設的に壁面緑化を構成できるシステム。一般的な仮囲いパネルと互換性があるため、既に設置している仮囲いにも壁面緑化を組み込みことが可能なシステム。
 サイズ：W1500×H3000×D300

自立システム
 SR-Pを用いて仮設的に壁面緑化を構成できるシステム。フレームにカウンターウエイトを設けて耐風性を考慮した自立可能なシステム。イベントなどのパーティション等に適している
 サイズ：W900×H1800×D600

ブロックタイプ

ポットタイプ

登はんタイプ

下すいユニットタイプ

キューブタイプ

立ち木タイプ

ポールタイプ

ワイヤータイプ

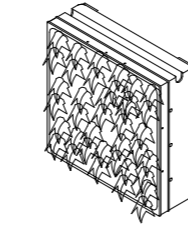
ネットタイプ

メッシュタイプ

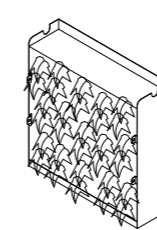
マットタイプ

パネルシステム

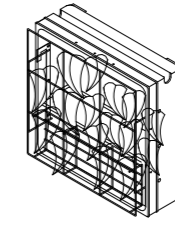
自立システム



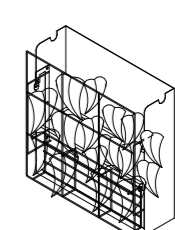
SR-P (PPブロック)



SR-P (SUSブロック)

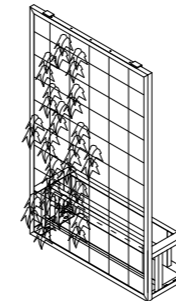


SR-P (PPポット)

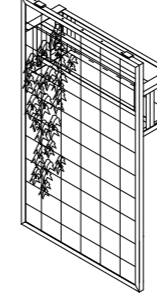


SR-P (SUSポット)

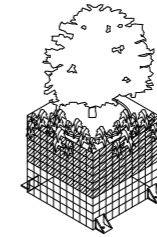
特願、特願PCT



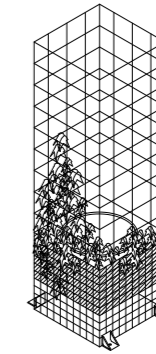
登はんタイプ



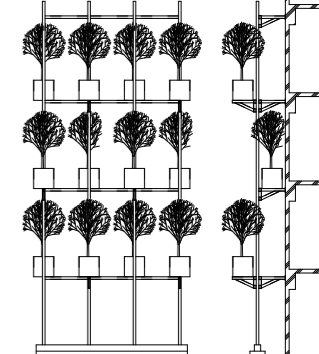
下垂ユニットタイプ



キューブタイプ

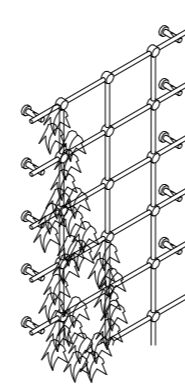


キューブロングタイプ



立ち木タイプ

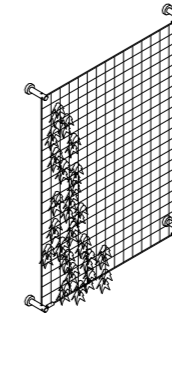
特願、意匠



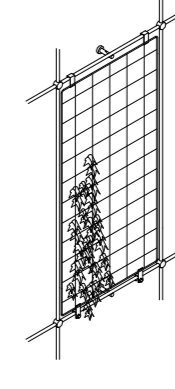
ポールタイプ



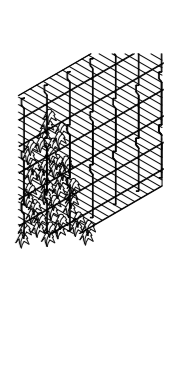
ワイヤータイプ



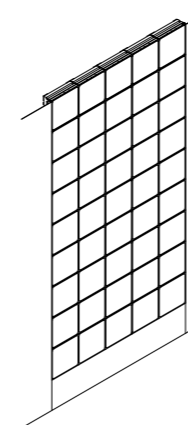
ネットタイプ



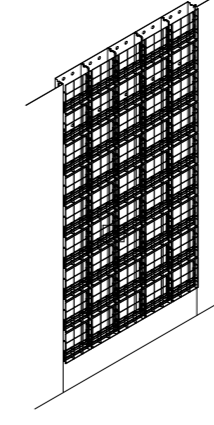
メッシュタイプ



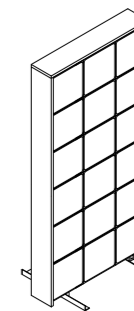
マットタイプ



パネルシステム (PP)



パネルシステム (SUS)



自立システム

特願、特願PCT